



友愛

題字 前渕 幸信



[理念] 自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい

社会福祉法人 友愛会

亀岡友愛園

〒621-0251 京都府亀岡市本梅町平松ナベ倉 12 番地
TEL : 0771-26-2115 (代) FAX : 0771-26-3557

| | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 《特別養護老人ホーム》 | 《デイサービスセンター》 | 《居宅介護支援事業所》 | 《ホームヘルプステーション》 |
| TEL : 0771-26-2115 | TEL : 0771-26-5432 | TEL : 0771-26-0039 | TEL : 0771-26-0038 |
| FAX : 0771-26-3557 | FAX : 0771-26-3557 | FAX : 0771-26-5929 | FAX : 0771-26-3557 |

《亀岡市西部地域包括支援センター》

TEL : 0771-26-0056
FAX : 0771-26-5929

《高齢者あんしんサポートハウス》

京都府亀岡市本梅町平松原谷 24-2
TEL : 0771-26-2310 FAX : 0771-26-0880

地域密着型事業 すずらん

〒621-0806 京都府亀岡市余部町中条 1 7 番地
グループホーム 小規模多機能ホーム TEL・FAX 0771-20-2840

社会福祉法人友愛会 後援会 振込口座 01030-8-42554 <http://www.yuaien.or.jp>

祝 辞



京都府知事

西 脇 隆 俊

社会福祉法人 友愛会 亀岡友愛園が創立五〇周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

心して暮らせる地域環境づくりが求められているところです。亀岡市においても二〇四〇年には高齢化率が約四〇％になる見込みです。

合的に推進していくため高齢者健康福祉計画を策定して施策を展開しているところです。

昭和四八年十二月に軽費老人ホームを開設されて以来、幾多の困難を乗り越えながら、個人の尊厳、地域での暮らし、自立した生活を大切に「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」を理念として、前副理事長をはじめ役員、関係者の方々が、五〇年間の歩みを着実に進めてこられましたことに敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

このような中、貴法人におかれましては、平成九年の特別養護老人ホーム友愛園の開設等、地域のニーズに即した介護サービスへの提供に努められ、利用者や住民の皆様の信頼を益々築いておられます。

これからも亀岡市をはじめ、地域の保健・医療・福祉の関係者の皆様方とともに、誰もが住みやすい「まちづくり」を進めていく所存ですので、御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

「人生一〇〇年時代」という超高齢化社会では、年齢を重ねても生きがいを持って活躍でき、介護や支援が必要になっても安

京都府におきましても感染症の蔓延等厳しい社会・経済情勢の中ではありますが、府民の皆様とともに誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる「地域包括システム」の実現に向けて、保健・医療・福祉の幅広い施策を総

結びに当たりまして、開設五〇周年を更なる契機とされ、新しい歴史の扉を開いていかれますよう御期待申し上げますとともに、社会福祉法人友愛会のみならずの御発展を祈念してお祝いの言葉と致します。



祝 辞

亀岡市長

桂 川 孝 裕

社会福祉法人友愛会が、法人設立から五〇周年という節目を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

昭和四十七年の法人設立以来、役員を始め関係者の皆様が手を携えて、社会福祉事業にお取り組みいただき、「自分を愛するようになられた隣人を愛しなさい」を理念として、軽費老人ホーム、通所介護、特別養護老人ホーム、居宅介護支援、地域包括支援センターなど、地域のニーズに合わせたサービスを幅広く展開され、地域の高齢福祉の中核的な拠点として大きな役割を果たしてこられました。また、利用者の皆様とその御家族の幸せを考え、きめ細やかなサービスを通してこれまで多くの方の人生を支えて来られました。今日に至るまでには大変な御苦労があったことと思いますが、御努力と御尽力を重ねてこられた歴代の理事長をはじめ、職員の方々に深く敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

さて、我が国では、二〇二五年

には団塊の世代が七五歳を迎え、二〇四〇年には団塊世代の次の世代が六五歳以上となる時代を迎えようとしています。また、亀岡市においても二〇四〇年には高齢化率が約四〇%になる見込みです。

こうした超高齢社会を迎えた今日、高齢となつてからも生きがいを持つて暮らせる持続可能な地域社会づくりの必要性が高まっています。

そうした中、亀岡市では、「第五次亀岡市総合計画」で、高齢になつても誰もが住み慣れた地域でいきいきと自分らしく暮らし、社会の一員として地域で貢献・活躍できるよう、生きがいづくりや社会参加を促進することを施策の方向性とし、生きがいづくりと社会参加の支援、健康づくりの推進と介護予防の充実など、様々な施策を展開しております。

また令和三年度に策定した「亀岡市いきいき長寿プラン（亀岡市高齢者福祉計画・第八期亀岡市介護保険事業計画）」では「住んでよかつた亀岡、高齢になつても楽し

い亀岡」を基本理念としており、住み慣れた地域で人生の最期まで自分らしく暮らすことができる社会づくり、高齢者の日常生活上の支援体制の充実強化、高齢者の社会参加の推進を一体的に進めてまいります。

いくつになつても、健康で住み慣れた地域で、人生の最期まで自分らしく暮らせることは、誰しもが望む姿であると存じます。社会福祉法人友愛会には、これまで培つてこられた経験と知恵をお貸しいただき、これからの本市福祉の充実に今後とも一層の御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、多くの方々の多大な御尽力により、五〇周年の節目を迎えられましたことに、心から敬意を表しますとともに、社会福祉法人友愛会の限りない御発展と、関係者の皆様方の御活躍と御健勝を心から祈念いたしましたし、お祝いの言葉といたします。



ごあいさつ

社会福祉法人友愛会

理事長 前 洌 功

今日まで、ご援助やご指導を賜っている京都府と亀岡市の行政の皆様。ご協力やご支援をいただいています。本梅町をはじめとする地域の皆様。私たちが提供する高齢者福祉サービスをお使いいただいているご利用者の皆様とご家族の皆様。物心両面でご支援いただいている後援会とキリスト教信者の皆様。そして、社会福祉法人友愛会の高齢者福祉サービスを共に作り上げてきてくださった役職員の皆様。

皆様のおかげで社会福祉法人友愛会は創設五〇年を迎えることができました。今日まで事業を継続できてきていることに心より感謝申し上げます。

昭和四三年に日本キリスト団亀岡教会で信者の懇談会に参加していた前洌幸信氏（後の初代理事長）が意見を求められ発言した「今後、老人問題が深刻化するのには確実でしょう」の一言が友愛会設立の第一歩でした。

この後、福祉事業の制度や国庫補助金の仕組み、そしてその申請方法などを先輩施設の理事長さんたちにご指南いただきました。自己資金作りは、初代理事長がそれまで就労していた西陣織工業

組合の関係者の皆さんに賛同いただき金品のご寄付や安価に譲っていただいた西陣織の反物やネクタイ販売で得た収益。また、全国のキリスト教信者の方からいただいたご寄付で賄うことができました。建設用地の取得に至っては二転三転し、計画を断念する寸前にまでいきながらも当時の亀岡市長にいただいた助言と紹介により土地を所有しておられた方のご厚意と地元の方のご理解でこの本梅町に受け入れをしていただけました。

構想より五年余りの時を経て昭和四八年十二月一日に軽費老人ホーム亀岡友愛園が開設されました。

数年が過ぎ、軽費老人ホームにお住いのご利用者の願い「住み慣れた本梅の地で最期まで過ごしたい」に応えるため隣地に平成九年に特別養護老人ホーム亀岡友愛園を開設できました。

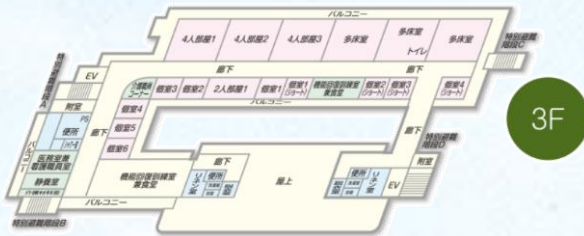
その後は、平成十九年にグループホームと小規模多機能住宅介護を行う地域密着事業所のすずらんを余部町に開設。平成二十二年には、特別養護老人ホームを増築し一部ユニットケア化。平成二十七年には老朽化した軽費老人ホームをあんしんサポートハウスへと生まれ変

わることができました。

資金も土地も無いゼロからの出発でした。賛同いただいている多くの皆様のご協力、支援で友愛会は存在しています。

『自分を愛するようにあなたを隣人を愛せよ』キリスト教の聖書に記されている言葉が友愛会の経営理念として五〇年間、伝え続けてきたのは初代理事長です。その理念を私たちは受け継ぎ、友愛会の提供するサービスを通して笑顔をいっぱい花咲かせていけるよう。また、物価高騰等の経済状況の変化。感染症や自然災害等の困難な事象に見舞われても事業を継続していけるように、役職員一同、努力してまいります。今後とも、皆様のご支援とご協力を賜りますようによろしくお願ひ申し上げます。

最後に、昨年三月三十一日に永眠された初代理事長の前洌幸信氏と昨年二月二十八日に永眠された前理事長の内藤徳男氏に長年の功労に対し感謝の意を表させていただきます。



特別養護老人ホーム

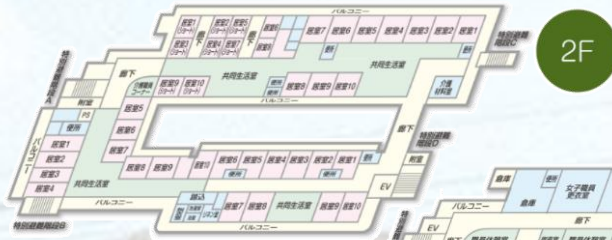
(介護老人福祉施設)

定員 80名

ユニット型

5ユニット 50床

従来型(個室・多床室) 30床



ショートステイ

(短期入所生活介護)

定員 6名

| | |
|------|-----|
| 個室 | 2部屋 |
| 4人部屋 | 1部屋 |



ホームヘルプ

サービス

(訪問介護)

身体介護

食事・入浴・排泄・着替えの
介助

生活支援

介護者の負担を軽減でき
るだけ自立した生活ができ
るように援助します

デイサービス

(通所介護)

入浴や食事・健康チェック・
レクリエーション等の
サービスを行います

亀岡市地域包括

支援センター友愛園

困り事の相談窓口です

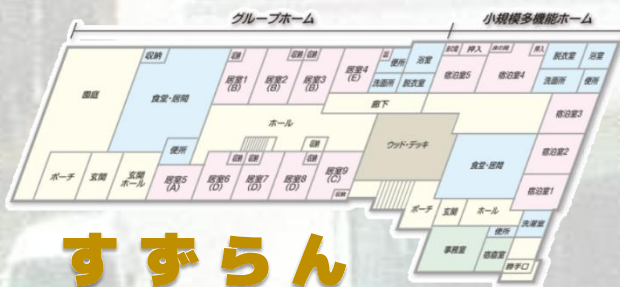
ケアプラン作成

(居宅介護支援)

高齢者あんしん

サポートハウス

定員30名

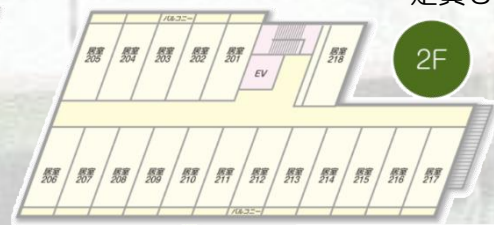


すずらん

グループホーム
(認知症対応型共同生活介護)

定員9名

小規模多機能ホーム
(小規模多機能型居宅介護)



祝 辞

社会福祉法人友愛会 監 事

原 田 太 郎

社会福祉法人友愛会が創立五〇周年をお迎えになり、あわせて記念誌を発行されますことは誠に意義深く心からお喜びとお祝いを申し上げます。

友愛会は、昭和四七年に創立されて以降、五〇年にわたり「自分を愛するようあなたを愛しなさい」の理念を、活動の柱として高齢者福祉の増進と地域社会に必要な存在として、これまでご尽力された歴代役員ならびに職員の方々に深く敬意と感謝の意を表します。

友愛会の歴史は、創業者前瀬幸信初代理事長の回顧録によりますと「これから日本は高齢化社会がやってくる」との簡単な気持ちでの発言が発端となつて、「老人ホームを我々の手で

建てよう」と夢のような話を持ち上がったが、建設資金も建設用地も何もない「ゼロ」から建設計画を立てようというのは無謀極まりない計画だと誰もが思つた。建設計画を進めるには

勤務先と二股はかけられず退職しなければならずなかなか決心はつかなかつた。そんな中で日頃から老人ホームに関心を寄せる方々との出会いがあり、ご支援を頂いた大切な「絆」で大勢の方々に支えられ「二に努力、二に忍耐」の理事長の歩みが周りの人々を動かすエネルギーとなつて建設資金に

協力の方や、長い歳月を費やし一転二転と繰り返し建設候補地では、夜明けまで地元の方々の話合いに尽力された支援者の熱意が切羽詰まったその局面をひる

がえたことなど、暖かい心根の人達にめぐりあえた不思議な縁、多くの人達の環は多くの宝物であり現在の老人ホームの在り場所に完成し、今の友愛会が創造されていったのですとあります。職を辞し初志貫徹されたことは正に感服の極みであります。

昭和四七年に当時の厚生省から認可を受けて着工以来五〇年の歴史は、確固たる信念と決意、不断の努力と堅実経営により軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ホームヘルプステーション、

居宅介護支援事業所、小規模多機能ホーム、地域包括支援センター、そして軽費老人ホーム老朽化に伴う「高齢者あんしんサポートハウス」への建て替えと、こ

まで成長されたことは、関係官庁は勿論のこと関係して下さった方々の祈りとご支援を頂きましたお陰と敬意を表します。

厚労省の発表による平均寿命は男子八一歳、女子八七歳と尚続伸中ながら、一方健康寿命は男子七二歳、女子七五歳と何れも平均寿命との差、その間は介護などの手助けが必要になる可能性があります。高齢化は

団塊世代を迎え益々進行と共に福祉施設の果たす役割・使命が期待されます。結びにあたり、この節目の創立五〇周年を契機に、今後ますますのご発展と職員皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

友愛園創立 50 周年に寄せて

社会福祉法人友愛会 監事

児 嶋 正 晴

亀岡友愛園創立五〇周年
おめでとございます。心
からお祝い申し上げます。

五〇年前、本梅町平松の
地に軽費老人ホーム友愛園
が設立され、高齢者拠点施
設としての現友愛園の礎が
築かれました。改めまして
前渕幸信先生の高齢者福祉
に対するご熱意とご尽力対
し心から敬意を表します。

施設が完成したところは、
周囲は緑に囲まれ、道路の
交通量も少なく、入所者の
方々が周辺を散歩されたり、
屋上でラジオ体操されてい
るのをよく目にしたもので
す。当時の私たちの周りでは
高齢者はその子供や孫と
ともに過ごし自分の家で家
族に看取られ生涯を閉じる
のが一般的で、高齢者施設
がそれほど身近なものでは
なかったように思います。

現在、高齢者世帯や高齢単
身者世帯が大多数。それだ
けに幸信先生の先見性と高
齢者福祉に対する熱意を今、
改めて感ぜざるを得ません。

急激な少子高齢化や家庭
介護の限界性から介護保険
制度等で国の制度整備が図
られ友愛園もいち早く西部
地域にあつて福祉の拠点施
設として特別養護老人ホー
ムやデイサービス、ホーム
ヘルプサービスなどの各種
サービス事業に充実整備を
され、軽費老人ホームも高
齢者あんしんサポートハウ
スとして立派に整備されま
した。また地域連携では本
梅町の自治会との連携のも
と、独居高齢者の災害時一
時避難場所の提供や宮前町

での地域生きがい施設はり
きり工房や余部町での町家
を生かした地域密着型事業

のすずらんの展開など地域
貢献にも果たしておられま
す。

私も微力ながら法人運営
の一端に参画させていただ
くなかで、前渕功理事長さ
んを先頭に広範囲な施設運
営を支えるスタッフの皆さ
んのそれぞれのご熱意と努
力に感服しております。複
雑かつ細かい国の制度、決
して十分とはいいがたい報
酬制度、同種事業所の過当
競争状況、人材の確保の困
難さ、加えてコロナ感染症
の長期化による施設運営の
困難さのなかでの役職員の
皆さんのそれらの困難を克
服されながら高齢者福祉充
実に対する熱意ある取り組
みに敬服しています。

私も高齢者の一人として、
住まう地域の中に友愛園が
あることを大変心強く思っ

ております。政府は、急激な
少子化に力点をシフトする
ように見えます。将来の状
況を思うと当然のこととし
よう。一方でこれまでの国
の成長を支えてきたのは今
の高齢者達です。高齢者が
幸せに人生を送れることも
当然必要です。その意味で、
最前線で頑張っていただ
い

ている友愛園の存在は大変
心強い限りです。今後も地
域に根差した高齢者福祉の
拠点「友愛園」として発展さ
れますよう心からお祈りい
たします。

最後になりましたがあん
しんサポートハウスの設置
に貢献されました内藤徳男
前理事長に敬意を表します。

高齢者あんしんサポートハウス 亀岡友愛園



「友愛会」の物語は

ネバーエンディング！

高齢者あんしんサポートハウス亀岡友愛園

園長 五代喜代美

二〇二二年一〇月、サポートハウス亀岡友愛園園長に就任いたしました五代喜代美でございます。

友愛会では「ライサービス、特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所など『介護保険法』で長らく務めさせていただきました。そして今回二〇二二年十二月に創立五〇年という記念をこの機関紙でお祝いできること大変ありがたく、この期間をともに乗り越えてきた職員をはじめ、支えていただきました後援会の皆様方に感謝申し上げます。

法人設立時も軽費老人ホーム運営での苦労話は故前副幸信顧問著の「祈りは奇跡を呼ぶ」でご紹介されておりますが、振り返れば老人福祉政策の始まりの波に乗り、「ロードプラン」推進のチャンスを生かし、そして介護保険制度の未来に従事してきました五〇年の歴史には常にさまざまな利用者様や職員たちの数えきれない素晴らしい物語がありました。人生の最終ステージをここ友愛会で過ごされましたご利用者様やそのご家族様、故成瀬始居室管理責任者、内藤徳男前サポートハウス園長しかり、これ一

つ欠けても今の法人は存在していなかったのではないかと考えられます。

この度サポートハウスに異動になり、改めて新人五代会ご利用者にご起こる物語を「事」は一つの事象から成らない」といつ広い視点で見ることができるようになりました。複雑に組み込まれた「事」ですが、一つ一つ紐解きながら進んでいく、時間を楽しむ、周りの人と小さな出来事を喜び合う、よく笑う、心から笑う、丁寧に聴く、想像して描く、自己表現する、とにかかちやってみる、在るがままに受け入れる、「それでよい！」「これが五〇年という長きに渡ってパートナーとして支えあつた秘訣ではないかと感じております。社会情勢は厳しさを増すばかりですが、友愛会物語はネバーエンディングです。

人生一〇〇年時代に突入しました。皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈りし、そして友愛会の歴史が長く続き、物語が凜々と語られていくのを願っております。

あんしん
サポートハウス

顧問様が天に召され淋しい限りです。そして、世界を見るととき二〇二〇年二月に武漢から新型コロナウイルスが広がったニュースが入り世界中に広がっています。そして、今、ロシアとウクライナとの戦い、北朝鮮拉致、イランが急速に核開発核兵器に関する総合的な力を持っている状態です。天候も不順で世界中が温暖化で山火事、農作物不作で目の前に食料危機が見える日々ですが、お陰様で亀岡友愛園に入所させて頂いて安心しております。一人住まいの私にとっていつも安心して過ごさせて頂いておられます。

スケッチ漫画を描く 楽しみの日々

ご利用者 安倍 洋子

今年の十一月で高齢者あんしんサポートハウス亀岡友愛園に入所させて頂いて六年を迎えました。早く過ぎ去ったと思う日々です。

昨年、二月に内藤園長様が天に召され、又、三月に前淵

出会いです。この

亀岡の地に老人ホームを建てる必要を感じられたそうです。これからは高齢社会になる事を示されて、西陣織物工業組合を退職なさりました。大変なご苦労をなさったそうですが、お祈りによってこのホームが建ち上げられました。

今、日本の国は比較的平和に過ごしています。もちろんいろいろな問題があります。しかし、聖書はただ道徳を教えている書物ではなく過去現在未来を預言した諸仏で畏敬の念をもって朝夕の祈りと共に愛読しております。

これから、益々世界は艱難時代に入ると思いますが一日一日安心して過ごせる事が感謝の限りです。園長様、課長様、スタッフの方々の温かい思いやりは年若い私にとって大きな慰めとなり、ひとりのぼっちも気楽で幸せと思う日々です。



空気の美味しいところでスケッチ漫画を描いたりして楽しんでおります。感謝の限りです。



この度は社会福祉法人友愛会設立五〇周年を心より喜び申し上げます。

この際私のたどって来た道すじを述べさせていただきます。

私は播り鉢(すりばち)の底に生まれ、世間知らずで愚か者でございます。私の青春時代は支那事変及び大東亜戦争となり、開墾や敵襲来の時の姿勢竹槍で敵に向う練習など、晴れやかなところは何もありませんでした。

一人の兄も戦死し家の跡取りを私が取ることになり、主人を迎えました。

亀岡友愛園との出会い

ご利用者 中村 きぬ 枝 (97歳)



今後も甘えさせて頂き、一生をこのサポートハウスで終えさせて頂きたいと思っております。当年九六歳つたない文章で失礼致します。

主人は五六歳で亡くなり、五五歳から生活費を稼ぐために独学で和裁を習得しました。八八歳まで和裁を続け、亀岡友愛園デイサービスに五年間お世話になり、この高齢者あんしんサポートハウス亀岡友愛園に只今在住です。



ご家族様の声

ハウスでの貴重な日々

ご家族

竹内 美知栄

あんしん サポートハウス

「私いつまで生きるとも、長生きして過ぎませぬ。」と母は毎朝元気な口調で言っていました。「いのちがある間生きるとも、遠慮は無用やで。」と私は笑って答えます。母は三年前、九五歳の時に『あんしんサポートハウス』に入居した。すでに腰は二つ折れになり手押し車に頼る不自由な身



体であったが、ハウスでの生活を気に入っていた。

この四月、老衰が進み心の暮らしに支障をきたすようになった。今後の生活プランを立て直さなければならぬが、母はハウスでの暮らしを望んでいる。当面、妹と交替で泊まり込み、介助をするようになった。

「いつかは私、お母さんとの思い出があまりないわ。」と妹がいう。我が家は自宅から一キロほど離れたところで年中無休の小さな食料品店を営んでいた。母は店番で留守が多く、店から戻る家事で忙しかつた。

母の介護にハウスで過ごした日々は、私と妹にとって貴重な時間になった。母の立ち座りに手を貸し、歩行に付き添う。横に座りゆっくりと話を聞く。母が一番幸せだったのは、父とカフオケで歌いまくっていた頃だという。父の得意そうな



様子が見えるようになった。母は時折、目をぎゅぐゅとこぼす。ほどなく「なつかぬ。」とつぶやき、涙を切り替える。自分を信じて生きてきた強さが今更に伝わってきた。思いがけず母に密着して過ごしたハウスの日々は、私は感謝している。「本当はここにずっと住みたいわ、あかんなかぬ。」ハウスを離れる前日、母はしみじみ言った。七月から隣接の特養ホームに移り、新たな環境での生活が始まった。

ハウスの職員さんはじめ、お世話になった皆様ありがとうございます。特養ホームでも、出来る限り母らしく前向きに過ごしてほしいと願っています。

元職員からのメッセージ

亀岡友愛園で学んだこと

軽費老人ホーム亀岡友愛園

平成17年10月退職

森田 俊 則

友愛会法人設立五〇周年記念おめでとうございます。

私が軽費老人ホーム亀岡友愛園にお世話になったのは、勤務していた会社を早期退職して、約一年後でした。そろそろ再就職を考えたというころ妻がチラシ広告を見て「ここならいけるかも。」と言いつつくれました。その広告には、「ギターを弾ける人、歌

特別養護老人ホーム 亀岡友愛園



特別養護
老人ホーム



話を聞くこと
そして 謙虚さを大切に
受容すること

特別養護老人ホーム亀岡友愛園

副園長 栗田 一平

社会福祉法人友愛会創立五〇周年おめでとうござ
います。
特別養護老人ホーム亀岡友愛園で副園長をさせて頂
いている栗田です。

私が亀岡友愛園で働き始めたのはちょうど十年前で
す。それまでは京都市の特別養護老人ホームで勤めて
いました。亀岡から京都までの通勤時間が長かった事
と、家族との時間を作る為に心機一転自宅から近いこ
の友愛園に転職させて頂きました。

以前の職場での話を少しさせて頂きますが、私はコ
ニトリリーダーという立場で働いており、職員とぶつ
かる事が多々ありました。自己主張の強い者同士がぶ
つかるので、中々決着が付きません。職員との溝が深
まるばかりでした。でも本当は、私が冷静に話を聞く
姿勢と、相手の話を受容する事ができていれば、お互
いがしんどい思いをせず話し合えたのではないかと思
っています。結局、私がしんどくなり別の部署へ異動
させてもらいました。異動先では自分のダメな部分を
反省し、謙虚さを大切にしながら、相手の話をまず聞
き受容する姿勢を常に持つことでチームワークの取れ
たケアを実践できた経験があります。

友愛園でも入職当時は、キャリアのある人、リーダ
ーをしていた人等色々な見方をされていましたが、親
しみやすい職員さんが多く、すぐに馴染むことができ

思えばあつという間の十年間でした。一般介護職から
始め、副主任、主任、係長、課長、そして副園長にな
るまで様々な経験をさせて頂き今に至っています。今
になってようやく以前自分が困っていた事に対して、
相手の話を聞く、受容する、謙虚さを持つ事の大切さ
を実感しています。

日々思う事ですが、介護という仕事は高齢者を通じ
て「人としての在り方」を学ぶことができる仕事であ
り、高齢者だけではなく、子供から大人まで、人と人
が関わる際に大切な「相手を感じる気持ち」を教えても
らえる、言わば「人間学」だと思っており、誰に対し
ても大切な事だと思っています。認知症を患うと自分の気
持ちをうまく表現する事ができません。そういうもど
かしさや寂しさ、怖さが様々な行動となって現れます。
そういう方々が特養の中で生活されており、私たちは
その方々の望む生活を提供することを目標としています。
相手の気持ちを考える事、自分たちならどうするのか
と自問自答を繰り返し、様々な職種が集まって検討を
重ねています。

五〇年の長い歴史の中で介護も進化してきています。
しかし、昔も今も高齢者に対する気持ちは変わりませ
ん。これからも特養で生活されるご利用者が元気に生
活できるよう精一杯の支援と、地域資源としての役割
を担っているよう頑張りたいと思っています。

友愛園で感じたこと

従来型
松本理恵
介護主任



入社十二年経ちます。

入社時ヘルパー二級の資格のみで、【認知症介護】についてほとんど理解していませんでした。

その頃は業務をこなす事が精一杯で、認知症のご利用者に対してどのように接したらいいのかかわからないまま、何度か同じ訴えをするご利用者に対してさつき説明したことをまた言われても・何でまた???”と思う毎日でした。
又、介護の専門用語も知らず、一



時の恥をしのぎ、先輩職員の方々に聞いていたのを覚えています。
しかし、ステップアップできるのが介護の仕事です。入社して三年後、国家資格である介護福祉士の資格取得ができ、それはとても自信に繋がりました。現場経験を積み上げ、それから数年後、現在の職種である介護主任を任せて頂くこととなりました。

介護主任という役職になりましたが、当時は具体的は何をしたらいいのか分からず悩む毎日でした。しかし一緒に働く仲間が仕事での悩み相談や、業務内容の疑問・提案をしてくれた事でたくさん

気づきに繋がりました。私一人ではなく、一緒に働く仲間が私を『主任』としてくれたと実感しています。

以前はご利用者一人ひとりに寄り添う事ができない事もありましたが、業務内容の改善、介護ロボットの導入、記録の簡素化、人員不足の改善などで、今はご利用者一人一人に寄り添う事ができ、ご利用者の不安を安心に変え、皆様が笑顔になれるようみんなで頑張っています。

現在従来型特養では、外国人労働者が四名勤務しています。外国人労働者の方々には、ご利用者に対してとても一生懸命に丁寧な接し、皆様の生活を支えてくれています。その姿を見て、私たちが教わることも多々あり、何より元気で素敵な笑顔でいっばいです。笑顔はご利用者に伝わります。友愛園の理念である「自分を愛するよう隣人を愛しなさい」にそった介護を実践し、ご利用者一人ひとりのその一瞬の笑顔を守っていきたくです。

ユニット型特養
2階介護主任
野本誠喜



現在私は、ユニット型特養の2階介護主任をさせて頂いています。
今回「亀岡友愛園に入職して」という題材で自分自身と友愛園との縁のお話をさせて頂きます。

私の場合は、亀岡友愛園に入職するに至った経緯は少し特殊だったと思います。私が大学四回生の時に大学の研究の測定のお手伝いで「あんしんサ

特別養護

老人ホーム

友愛園で感じたこと

ポートハウス」の前の「軽費老人ホーム」に来たことから始まります。その後「友愛園で宿直のバイトを探している」と教授から声がかかり、月四回の宿直バイトが始まりました。

大学は四年で卒業しましたが資格欲しさにもう一年科目履修生として大学に残ったため時間もあり、宿直バイトを継続し回数も可能な限り増やして入っていました。

また、日中も時間が許せばボランティアで行事などのお手伝いをする日がありました。そんな環境で一年近く働いていると、当時の内藤園長や寮母長のご厚意で日中もパートとして働く事になり、最終的には使わなくなった離れにまで住み込みさせて頂くという、とっぴり友愛園生活が始まっています。

軽費老人ホームでは五〇名のご利用者の生活のお手伝いを行っていました。五〇名のご利用者に関わる中で様々な人生や生い立ち、家族や仕事など沢山の事を教えて頂きました。それと同じく当時の前理事長をはじめ内藤園長や課長・その他多くの職員の方々にお世話になり沢山の事を学ばせて頂きました。

しかし、その様な軽費老人ホームでの生活は耐震基準による現在の「あんしんサポートハウス」への建て替えと同時期に特別養護老人ホームへの入社を打診された事もあ



当時の理事長には友愛園の設立や感謝の意味などを教えて頂きました。また、内藤園長には働く事や人間関係、正直でいる事など折に触れて話をして下さいました。

課長やその他の職員の方には優しさや厳しさ思いやり、ご利用者へのかかわり方や介護などの技術や知識など、また人生の楽しみ方も教えて頂きました。

本当に皆さんにはお世話になり自分の中でもとても充実していた時間でした。

り、一度は無理を言って期間をずらして頂き現在の特別養護老人ホームに入社となりました。

内藤園長には「これから背負っていくんだから」と背中を押して頂き、期待に添えたいと思い入社しました。

入社すると真面目で厳しいリーダーの元ビシバシと指導を受けたおかげもあり介護という仕事を学ぶ事が出来ました。そのような中でも職員の方々に声を掛けて頂き楽しく仕事をすることが出来ます。

特養では入職時は職員が辛うじて居ましたが、徐々に少なくなり仕事に慣れてきた頃にユニット移動やリーダーへの話が上がりリーダーをさせて頂き約四年程経ち、現在の二階ユニットの介護主任となりました。

人手不足の為本来の主任業務がなくなりながら現場の業務に多く入り、どうしても現場業務が優先してしまうので、力不足である自分を他のリーダーや現場職員に助けられながらまた、諸先輩方から指導して頂きながら現業務に当たらせて頂いています。

その様な中でも主任という立場になり、対ご利用者という事だけで

なく対職員という事にも目を向けていく必要がある事を学びました。そこで、少しでも職員が働きやすい環境を整えていき、職員が辞めなくて済むことで、充実した環境からの充実したサービス提供が行える事を目指していきたいと想い、これからは努めていきます。

また、前副顧問や内藤前理事長が相次ぎ亡くなられ寂しい部分もありますが、その分を埋める事は出来ませんが少しでも一職員として友愛園を支えていくことで期待に少しでも応えられたら感謝の意になるのではないかと思います。

引き続き皆様のお役に立てるよう精進していきますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



なく対職員という事にも目を向けていく必要がある事を学びました。そこで、少しでも職員が働きやすい環境を整えていき、職員が辞めなくて済むことで、充実した環境からの充実したサービス提供が行える事を目指していきたいと想い、これからは努めていきます。

また、前副顧問や内藤前理事長が相次ぎ亡くなられ寂しい部分もありますが、その分を埋める事は出来ませんが少しでも一職員として友愛園を支えていくことで期待に少しでも応えられたら感謝の意になるのではないかと思います。

引き続き皆様のお役に立てるよう精進していきますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

特別養護
老人ホーム

友愛園で感じたこと

介護支援専門員
主任
中澤 妙子



入職し二三年になりました。入社当初は何もかもが初めての体験で、先輩のされる事を見て勉強し、必死でメモを取りながら「何故?」という疑問もなく、口々先輩の姿を見て実践するだけの毎日でした。夜勤業務も覚えなければならぬ事ばかりで、決められた業務スケジュールをこなしました。

思い返せばこの頃から職場内で介護福祉士試験を受けるような風潮が出てきたように思います。介護福祉士試験の勉強を皆でしていく中、正しい介護技術や知識を得て、ケアには全て意味があると知りました。これからは先輩を見て仕事を覚える時代ではなく、介護業務を理論化し、正しいケアを実践できるように人材育成していく方向性となってきました。

友愛園の雰囲気は少しずつ変わってきたように思います。

マニュアルの整備の実施や新人育成の方法の見直しを行い、特に新人職員には三カ月間の試用期間を設け、施設内研修や現場教育を実施しています。(ちなみに以前は一月でした。)

このような職場内の変化の中、介護福祉士を取得したら次に介護支援専門員を目指すという実兄との約束をしていたので、独学で勉強し介護支援専門員試験を受験しました。しかし一回目は見事不合格でした。そんな甘いものではないと痛感した次第です。五〇歳過ぎてからの試験勉強は内容の理解や、暗記が難しかったです。娘に勉強の方法を教えてもらったり、毎日コツコツと勉強することによって合格できました。

その後、上司から相談員の人事を頂き、しばらく相談員を経験した後ケアマネージャーになった次第です。現在もケアマネージャーをしています。相談員での経験が活かされる事が多く、大変貴重な経験だったと感謝しています。

認知症ケアについては以前痴呆ケアと呼んでいましたが、痴呆から認知症へ名称変更されるようになり、認知症に対する考え方の確立や対応方法の改善に国・都道府県も力を注いでいます。友愛園でも専門的に認知症ケアを学ぶために、認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修・認知症介護指導者養成研修に参加する機会を与えてもらいありがたいと思っています。

認知症ケアといえば、一人の介護員を思い出します。
岩本健二介護員は昨年突然亡く



なりました。私たちにはとても厳しい彼でしたが、ご利用者にはいつも満面の笑みで関わっていました。どんな事でも耳を傾け、ご利用者さんも彼のことを好きだとわかります。二三年の間でも忘れられない事柄です。

これからは職員に関しても、長年勤めていく中で年齢を重ね、自分の身体と相談しながら何とか介護職を継続してはいますが、やはり体力や筋力の低下は免れません。それでも少しでも長く務めてもらえるように介護ロボットを導入し職員の負担を軽減できた事や、手書きの記録をICT化によりパソコン入力へと変更してもらった事で、時間短縮を図れるようになりました。このように二三年の間でたくさんの変革がありました。

ただ、私の中で変わらないものがあります。それは亀岡友愛園の理念である『自分を愛するように、隣人を愛しなさい。』と、掲げている言葉です。入社してから今現在まで常に心に刻んで仕事をしており、これからの理念を大切に仕事を続けていきたいと思っています。

特別養護
老人ホーム

友愛園で感じたこと

特別養護
老人ホーム

ユニット型特養
1階介護主任
桂 宏美



友愛園を初めて知ってから十八年が経とうとしていきます。実家からいつも京都方面に抜けるのに通っていた道はすなのに、面接に行くまでは建物の存在すら知らず、平成十七年一月に面接に行くときに初めて曲がった道でした。

入職した当時は、中途採用者はなかなか正社員になれず、フルタイム（非常勤）での働き方しかできませんでした。人手不足は感じられない時代で、若い二〇代・三〇代の方も多く活躍していました。その当時は私も二〇代後半で二人の子供を抱えながら働いていたのですが、子供の時間も増やしたいと思いつつ、少しでも通勤時間が近いという

ことで友愛園の面接を受けました。

就職はできたのですが、シフト表を見た時に「子供と過ごす時間が取れないかも・・・」と思い、慌てて「やっぱり辞めます」「その日のうちに」お断りしに行きました。しかし、「取り敢えずシフトの相談はできるしやってみたら。他の人を断ってしまっただから困るんですよ」と。「ああ、そつなんだ、断った人にも悪いし、まあそつかなあ。」と思い働き始めました。

その後、平成二二年ユニット型特養の立ち上げの時に、四月一日にユニットリーダーとなり、新規入所のご利用者が来られる時には皆で丸となり取り組みました。その頃はまた工事の途中で一階二階ユニット

トが協力しながら、皆でご利用者の生活に合わせたシフト調整を考えました。自分がユニットリーダーになった時、何を指すべきか迷いが起こらないようにと、園長を通じてその当時の前副幸信理事長に友愛園の理念を直筆にて書いて頂き、ユニットの中心に飾りたいとお願ひしたいところ、すぐに立派な額に入れて持って来てくれました。今でもユニットに飾ってあるのを見ると、初心に戻り気が引き締まります。その横には当時のご利用者と一緒に作成したカレンダーが今でも毎日めくられています。ユニット型特養が完成すると、毎月行事を行なうのがご利用者、職員皆の楽しみでした。日々の生活でもご家族様の面会や外出等、ユニット作りは本当に大変なことも多かったです。皆が笑顔で過ごせると次はもっと笑顔にしたいと、色々と仲間と企画していました。

しかし今は人員不足です。コロナ禍でもあり、なかなかできない事も多いです。しかし現場で働く職員の

皆で知恵を出し合い、初心を忘れず一生懸命働いており、三人目の子育てをしている中でも皆と働けている事にとっても感謝しています。

入職した当初の接遇勉強会でアンケート項目にあった「友愛園であんなの大切な家族を入所させたいですか?」の質問が今でも頭にあります。自信を持って「はい」と答えられるように頑張っていきたいと思えます。



友愛園で感じたこと

総務主任
中村 美恵



私が亀岡友愛園で事務職として採用してもらい二五年が過ぎました。
この年はちょうど特別養護老人ホーム亀岡友愛園が設立された年です。
当初は福祉施設がどのような場



所なのかもわからないままで、不安な毎日を過ごしました。
しかし、現あんしんサポートハウスの前身である軽費老人ホームのご利用者様に本当によく助けてもらったことを覚えています。ある方が、見回りの時間になると居室から外へ出て来て下さり、一緒に見回りをしてくださりました。又、その方の都合が悪い日には別の方が待っていてくださり、とても安心しました。そんな中、玄関にムカデが出たことがあります、どうしても怖くて取れない私を見かねたご利用者様が、自身もムカデが

の都合が悪い日には別の方が待っていてくださり、とても安心しました。そんな中、玄関にムカデが出たことがあります、どうしても怖くて取れない私を見かねたご利用者様が、自身もムカデが

苦手でありながらも一生懸命に取って下さり助けてくださいました。職員としては何とも情けない話ではありますが、当時の私は只々ありがたく、たくさんの方々に助けてもらって今があるのだと、感謝という言葉では足りない思いでいっぱいです。

当時は施設の行事も多く、事務職ではありますが色々な行事に参加させてもらい、ご利用者と一緒に楽しませて頂きました。

亀岡友愛園の理念は「自分を愛するように隣人を愛しなさい」です。入職した時から私はご利用者に教えてもらったように思います。

しかし、特別養護老人ホームの定員が五〇名から八〇名へと増え、グループホームと小規模多機能型施設すららが新しく設立し、近年では高齢者あんしんサポートハウス亀岡友愛園が誕生し、二五年間の間にたくさんの変化を間近で見えました。
自身の仕事では、事務所で仕事する時間が増えたことで、ご利用者様と接するよりも、ご家族様

と接する機会が増えました。二五年が経過し、私事ですがご利用者のご家族様同様に自宅で生活する親の介護が始まっています。
介護が必要とはいえ、親には親の思いがあり、自分の気持ちのやり場がない時があります。そんな時にご家族様からのお話を聞き、「私だけじゃない」と自身の気持ちを整理する機会を頂いています。

二五年前から現在に掛けて私に寄り添い育てて下さったたくさんの方々の恩を、今度は私が返していく番だと思っています。まだまだ人としては未熟ではありますが、友愛園の理念と笑顔だけは忘れず、精一杯頑張っていきたいと思っています。



特別養護
老人ホーム

友愛園で感じたこと

特別養護
老人ホーム

特養看護主任
平八重 朝雪



私は二〇一九年十一月に高槻よりの亀岡に転居してきました。就職先を探し、翌年一月に友愛園に入職しました。入職前は病院や老健での経験が少なく、特養で働くことは人生初の経験でした。亀岡という土地、馴染みのない京都弁のイントネーション等戸惑うことが多くありました。そんな中、友愛園に入職して一年も経たない日、自分の中でやっと館内のユニットまでを間違えずに行ける様になり少し仕事に慣れてきた頃に看護主任に任命されました。『うち、やれるんやろか？』不安、不満の毎日でした。しかし

そんな私に対していつも友愛園のスタッフに助けて頂き、笑顔を絶やすことなく今に至っています。

慣れないものばかりに体当たりしてきた三年間は本当に早いものです。まだまだこれからどんな難題が襲ってくるのか予想がつきません。笑顔を絶やすことなく頑張っていく覚悟は正直あまり無いですが、「このスタッフがいてくれたらやっていけるかな？」と思い頑張ります。そして何よりも私自身が京都弁のイントネーションを身に付けていきたいと思えます。

広く
職員募集
しています！
管理栄養士
主任 藤井 操

「長く勤められる理由は？」と聞かれると、三〇年前あんしんサポートハウスの前身である亀岡友愛園軽費老人ホームに入職した事と答える。

軽費老人ホームは、自分の身の回りが出来るご利用者が入所されていて、園長(前顧問)の自由で愛に満ちた園風と職員、パワー一杯のご利用者との毎日が、驚きと感激に満ちていた。
職員とご利用者はいつも一緒。桜が咲いたからとおにぎりを持って公園に出かけ、蓬を摘んではお餅をついて、ワラビ採りしたら夕食のお菜にした。



四季折々の食材を使って誕生日会のお膳を拵えたり、なんとフットワークの軽かったこと！
夏祭り・バザー・色々なクラブ活動(私はここで大正琴を教わった)・敵かなクリスマス会、等私にとっては、始めての事はかり。つらい事もあったけど、振り返ってみると楽しい事しか思い出さない。この気持ちがあるから、今も友愛園にお世話になってます。

職場が特養に移り、仕事内容は大きく変わり、「食を満喫する」から「食べる事は命を繋ぐこと」に意識が変わった。
生きていくことも死ぬことも大変な事、だから日常を大切にしながら

友愛園で感じたこと

いと「ご利用者は、ご家族は教えて下さる。友愛園は学びの場。相談できる職員、失敗して落ち込んだ時「大丈夫」とフォローして下さる上司に恵まれた事も仕事が続けられた理由だ。

荒井由実の「やさしさに包まれたなら」が心に沁みるこの頃。

やさしい気持ちで、もう少し働けたらと思う。

人が好きなあなた、建物は古くなっただけ、亀岡友愛園はあなたの言葉に耳を傾け一緒に考えてくれる職場です

絶賛 職員募集中です、一緒に働きませんか！



特別養護
老人ホーム



の皆さんからの優しい声掛けにどれだけ励まされたことが分かりません。

亀岡友愛園で仕事をして約20年、たくさんの方との出会いがあり色々な経験を積ませてもらいました。普段なら苦手な敬遠したくなるような事でも、周りの皆さんの支えのおかげで体当たりでトライさせてもらう事ができています。未熟な自分を成長させてもらえる職場だと思えます。

ご利用者からはいつも愛情深い言葉に笑顔と勇気をいただいています。尊敬できる上司にも恵まれます。何事に対しても前向きな姿勢でリーダーシップを取る姿に刺激を受けています。ご利用者と一番近くで

働く介護職員の皆さんのご利用者を喜ばせたいと思う姿勢を見て、愛情を感じますし、ご利用者の様々な自分の知らなかった一面を教えてください、私には想像もできないアイデアをもらい、驚かされる事も多いです。本当にご利用者お一人お一人の事を良く見て、関係を築かれています。生活相談員になっ

てからは、特にお一人のご利用者のケアについて様々な職種が集まって検討する機会が増えました。色々な意見を交わし、より良いケアにつながるような視点での意見を交わします。時には意見が違ってもありますが、真剣にご利用者のためを思う気持ちは共通していると感じます。多職種が集まって検討する機会を持つ事は、自分にとっても成長の機会となっております。そしてご利用者のより良い環境に繋がっていると日々感じています。

私は学校を卒業して亀岡友愛園にお世話になり、何も経験がなかったから先輩方に教えていただき、同僚たちに支えてもらいながら、介護職として経験を積ませてもらいました。結婚、出産を経て、生活相談員として仕事復帰しました。仕事と子育ての両立は私にとっては不安で一杯でしたが、働きやすい環境を整えて迎えていただき、本当に感謝しています。時間の制約や急な子供の体調不良で迷惑を掛ける事が多い中、周りの

友愛園で感じたこと

特別養護
老人ホーム



反省することも多いですが、自分を見直す大切な機会をいただいていると思っています。また、今はコロナウィルス感染予防のため、直接の面会ができず、陰圧室でのビニールカーテン越しでの面会となっています。カーテン越しではありますが、お互いに顔を見るだけで御家族の時間が流れ、ご利用者が普段とは違う様子を見せてくださる姿を見ると、こんな制限のある環境でも、ご利用者もご家族も喜んでもらえ有り難いな。次はもっと良い時間にし

てもらえるようお手伝いしたいなと思えます。

こうして多くの方々との繋がりのなかで経験し、学び、充実した毎日を過ごすことができ感謝の気持ちでいっぱいです。「自分を愛するようになあなたの隣人を愛しなさい」という理念に基づき、亀岡友愛園は人との繋がりを大切にする施設だと思えます。だからこそ、何もできなかった自分が今日まで頑張ってきたのだと思います。これから

私が周りに支えてもらっているように、私も誰かを支える役目を果たせるように、もっと自分を成長させたいと思います。

平成九年四月に亀岡友愛園に就職して二五年を迎えました。平成九年に特養とデイを開設しての就職でした。当時新採用の職員さんばかりでしたが、今同期は数名となりました。いろいろな理由で退職されました。いろいろな理由で退職されていきましたが、自分がなぜ二五年勤務できたのだろうと考えたとき、多くの方々を支えられてからこそやって来れたんだろうと思います。

勤続二五年の感謝



理事長(当時は施設長)より呼び出され、心の中では「いよいよ怒られるな」と覚悟していました。

しかし開口一番に、「川村君、身体でも悪いのか？大丈夫か？」と心配の言葉でした。私は「はい、大丈夫です」と言いましたが、「実は夜遅くまで遊んでいて」と正直に言えず、理事長の優しい声掛けに申し訳ないなという思いになりました。

私が入社する二〇数年前に、苦勞の中友愛会を立ち上げた方が新人職員にまで心使いしてくださったことが嬉しかったです。「あかんあかん、頑張ろう」と思いました。

入社当初はデイサービス勤務から始まりました。脳梗塞で半身まひの杖歩行の方・全盲で一人暮らしをされている方・虚弱で高齢の方・タ

友愛園で感じたこと

バコをくわえながら強がりと言われる一人暮らしの方(ほんとはめちやくちや寂しがり)・背髄損傷で首から下が動かない気難しい六〇代の方・童謡が好きで“ひよこの詩”をずっと歌われる認知症の方等テイB型二〇名ほど・テイE型八名ほどの方が一日の利用でした。

テイは私の介護・福祉の入り口であり基礎を学んだ時間・出会いが多くありました。

前記の六〇代の気難しい方はストレッチャー浴でお風呂に入られます。首から下が麻痺で介護の仕方によっては身体の痛みの訴えがあり、はじめはよく怒鳴られた思い出があります。ある日、入浴介助の途中で、「もういい。〇〇さんになんてしてくれ！」と怒られ、しばらくその方の入浴



から外されました。その時は「何なんだ！」と思いましたが、入浴以外でも上手に接している先輩職員さんのやり方を見ながら、なぜかこちらも意地になり、入浴以外その方の食事介助や隣にいた覚えがありません。ある入浴時間に「あかん！川村君呼んでくれ！」とその方が言われたそうです。「よし！」と、嬉しかった事を覚えています。それ以来私の介護はその方にとって痛い時もあったかもしれませんが、受け入れて頂いた事に対し喜びを感じて

います。

認知症の方で今思えば、重度の認知症の方だったと思えます。その方とコミュニケーションが全く取れずにケアできない状態でした。あの時、後輩職員

がその方と楽しくコミュニケーションをとっている姿を見て、「すごい！」と思い、「やり方を盗んでやろう」と考え、観察の日々が始まります。気付いた事は、機嫌の良い時に傍に行っている。視線を合わせてゆっくり話かけている。無理に次の介護をしようとしていない。その方に合わせて声掛け等している事です。そして私も行って見ました。コミュニケーションというより笑顔を見せてもらえました。「すごい！〇〇君(後輩職員)」と思わず言ったのを覚えています。今思えば、ユマニチュード的な介



護を当時から〇〇君は行っていたのだと思います。認知症の方と気持ちに通じた感じがしました。

テイは自宅に送迎に行きますが、家に帰ると小さいお孫様がおり、お爺ちゃんやお婆ちゃんの顔になられていました。自宅では介護が十分できていないのは分かっています。ですが、小さい子供達を抱えて在宅介護をされているのがとても困難である事が本当によくわかりました。

特別養護

老人ホーム



デイサービスセンター

のどかな
自然の中での
ひととき…

デイサービス



一期一笑

居宅サービス担当課長

柴田 一馬

今回この法人設立五〇周年記念誌の原稿依頼を受け、自身の経歴を振り返ると、介護職としての自分も丁度二〇年目の節目を迎えていました。

現在自分は在宅サービス（訪問介護と通所介護）を担当していますが、経歴の約半分は施設の介護職員でした。亀岡友愛園には平成二十一年一月からお世話になっていますが、当初は業務の改善や、行事を積極的に企画する事などに燃えていました。パチンコの台を並べたり、冬場にはホールの隅で足湯を楽しめるスペースを作ったり、年末恒例のご家族様と一緒に忘年会を企画したり、排泄支援の質の向上を図ろうと、部署内で「オムツ交換研究所」を立ち上げ仲間と切磋琢磨したことなど、楽しかった思い出はどんどん出てきます。それは逆に、出勤するとおおくならいならい

利用者がいらっしやらなかった悲しい思い出もあります。もう一度笑顔が見たかった！なら、生きておられる時に自分はもっと何が出来たのか？という自問自答は介護職を始めた当初から変わりません。

思い返すと、今までご利用者のために前向きに頑張ってきたのも、先輩職員たちのお陰です。人一倍迷惑を掛け、困らせてきた自信もあります。昔と比べると、たくさんの方の加算が増え、介護職員は根拠を求められ、専門性を問われる時代となりました。専門職として自己研鑽はもちろんです。同時に介護が大好きな職員が育つような事業所を目指したいです。

友愛会 創立五〇周年記念にあたり

元職員
桑田 昭

思い出します。友愛園の玄関入ったところには、友愛会創始者である前淵幸信様の題字「友愛」が大きく掲げてあり、その理念「自分を愛するよかに 隣人を愛しなさい」が添えてありました。

この度は、社会福祉法人友愛会の創立五〇周年記念誌におめでとう申し上げます。立地する「このよかな自然の中で、安心と安らぎの生活施設『亀岡友愛園』が利用者のみならず地域の安心・安全な福祉施設として喜んで迎えられる五〇年のめめたい節目を迎えられたことは、令和元年まで非常勤運転手として十二年にわたり在職しました私にとりまして大変意義深いものがあつた。

平成十八年に定年退職した通信会社では「人と人の意思をつなぐ」役割を担ってきたことはやりがいのある仕事でしたが、定年後は親の介護のこともあり全く経験のない「福祉」のよきを知りたいと思



い友愛園に応募しました。

「利用者送迎の仕事を通じてその安全・安心に徹することを改めて認識した次第です。また日々汗だくで介護されている職員の方の接遇を目の当たりにして正直「介護」の何たるかを知らなかった私

ですが、大げさではなく「命」と隣り合わせの大切な仕事と大いに学びました。ほぼ時を同じくして民生委員を担いでおの（十五年間）、特にお一人暮らしの高齢者等の見守りを通じ、その人が安心して暮らせる環境づくりや寄り添いは、友愛園での体験が大いに示唆してくれました。

また「デイサービスの利用者とは」みんなで歌おう懐かしい歌」を職員の間も一緒に大勢で楽しく歌ったことは、ギター伴奏した私も大いに元気をもらいました。

さすがに「コロナ」禍では大声ははばかれますが、いつか落着きましたらまた皆さんと一緒に楽しく歌いたいと願っております。

後述になりましたが、友愛園での二年間の短くて狭い体験ではありますが、改めて感じましたことは、介護現場も事務所にも「自由」「明るい」「闊達」な雰囲気漂っているということです（思いは私だけではないと思つたのですが）

このことは、ご利用者にとっても喜ばしいことだと思つたのです。

昨今人生二〇〇年時代といわれています。友愛園もぜひ「二〇〇年時代の良き居場所」として地域に愛され「組織の二〇〇周年

を目標とするように切に願っております。ありがとうございました。

【降の積もる深雪に耐えて 色交えぬ松ぞ雄々しき人もかくあれ】
(昭和二年昭和天皇勅歌)

…私の好きな言葉



デイサービス

ヘルプステーション

ご利用者様
一人ひとりに
笑顔と安心を
お届けしたい



スヘ
ステー
ション

ご家族様の声

「笑顔」の力

ご家族 東津ひづる

法人設立五〇周年 誠にありがとうございます。

御園に両親がお世話になり始めてから今までの間、様々な事がありました。

家の中で母が転倒した時には、遠方の為すぐに駆け付けることもできず、本当に心配でしたが、ヘルパーさんがすぐに救急車を呼んで頂き安堵したことは記憶に鮮明です。

ーさんに訪問していただいていたいなかったらと思うと今でもぞっとします。また、デイサービスで意識を失った時も、病院まで付き添って頂きほんとうに感謝で一杯です。

もう二人での生活は無理かなと思った時もありました。でも、父と二人訪問介護とデイサービスのお世話になり、ヘルパーさん達やデイサービスの方々からたくさんのお優しさや笑顔に元気を頂きながら今も二人で暮

らすことができます。

母がヘルパーさん方と楽しそうに話している様子を見ると友人のことを思い出します。介護の仕事に三〇年携わった彼女でしたが、その間何度も挫折を味わいました。病に侵され仕事を続けられなくなったり、立ち上げた施設が閉館の危機に追い込まれたりしました。その度に彼女を支えたのが利用者の方々の笑顔でした。貴方が居てくれて本当に良かった、ありがとう、その笑顔は介護士である彼女を支え、又、利用者は介護士の笑顔に元気を貰うのだと思います。ほんとうに笑顔の力はすごいですね。まさに今私はそのことを実感しています。

本当に御園には感謝の気持ちで一杯です。これからも両親や地域の高齢者の方々の心の拠り所として、笑顔と元気をお届けください。最後になりましたが、御園の益々のご繁栄を心よりお祈り致します。

職員の 想い

顧問へ 届きますように

訪問介護 係長
伊藤 真由美

友愛園 創立五〇周年おめでとうございませう。
「創立」と聞くと、並々ならぬ御尽力をされた顧問の事を思い出します。以前、顧問から「伊藤さん、友愛園がどうやって出来たかを知っていますか？」と尋ねられ、長年友愛園で職員として勤めさせて頂きながら、友愛園の歴史を知らなかった私に、「この本を読んでください。そして感想を聞かせて下さい。」と顧問が書かれた一冊の本を渡されました。普段あまり読書をし



ない私ですが、内容に引き込まれながら、一気に読み終えたのを覚えていません。
その本には、現在ある特養やその他の事業所の礎となる、軽費老人ホームの設立までの過程が書かれており、顧問が大変なご苦労を重ねられて、この友愛園がある事を知りました。
今は、その中の一つであるヘルパー事業所に勤務しています。同僚や利用者様、皆様に支えられながら、二〇年以上も友愛園で勤めさせて頂けている事に、感謝の気持ちで一杯です。
きつと、友愛園と言う施設がある事で、安堵されているご利用者様、ご家族様、又私と同じ思いを持つ職員も沢山いることでしょうか。
改めて、顧問、友愛園を創って下さり、ありがとうございます。
この思いが、顧問に届いていると信じて。

ヘ
ス
テ
ー
リ
シ
ヨ
ン
ズ

訪問介護の仕事で 思うこと

訪問介護 副主任
和崎 千恵子

友愛会創立五〇周年おめでとうございませう。この記念の年にここで働かせていただけることを光栄に思います。私は友愛園にお世話になり二〇年近くになります。子供が保育所に通い始め何か資格を取り働きたいと思い、小さいころから周りにお年寄りの居る環境で育った事もありこの仕事を選び友愛園に就職しました。毎日が忙しく、子育てにも仕事にも悪戦苦闘の日々でした。
ここ数年は子供も大きくなり、この仕事をしていて良かったと思えることが増えてきました。
訪問介護の仕事は、お家に伺い三〇分や一時間と言う介護保険で決められ



た時間の中で、家事支援や入浴、排泄など利用者様に応じたサービスを行う仕事ですが、私は限られた時間の中でもご利用者様との会話も大切にしています。長く関わらせて頂いているご利用者様には「もう子供さんは大きくなりはった？」「なかなか来てくれないと思っていた。忙しかったんやね」と声をかけて下さるご利用者様、とても温かい気持ちになります。
体が動きにくくても、自分の出来ることは自分でしますと前向きに頑張っておられるご利用者様、こちらこそ頑張らないと、逆に元気を貰います。
入浴が一人では不安だがヘルパーさんがついてくれると安心してお風呂に入るご利用者様、このような思いを肌で感じる事が出来るヘルパーの仕事は私は「天職」だと思っています。
今後、ご利用者様に満足して頂けるサービスを目指し頑張ります。



ケアマネジャー業

20年を迎えて

主任介護支援専門員

係長 松田裕子



友愛会 創立五〇周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

今後も地域に愛される施設として、ますますのご発展をお祈り申し上げます。

さて、私がこの友愛園に、ご縁を頂きましたのは、かれこれ二〇年前となります。

その当時、介護保険制度が設立されて間もない頃で、介護支援専門員

(ケアマネジャー)の資格を取得し、現在に至るまで周囲の皆様のご支援を頂きながら、この専門職に誇りをもって携わってまいりました。

駆け出しのころ、自分が描いた目標とするケアマネジャーは、ご利用者さまやご家族さまなど、自分が接する方々には、常に敬意を払い、笑顔を絶やすことがない接遇を心がけよう思い、活動に闊歩する自分の姿を重ねて参りました。

確か、この友愛機関紙へ、ケアマネジャーになって何年か経過した頃の所感を綴ったことがありました。

現在、二〇年と言いつ節目を迎え、当初の志を振り返ることがよくあります。

改めて、自分は高齢者と接する仕事が好きなんだなと思えました。自分自身が、その年齢の域に達したことで、ますます気持ちに寄り添える様になりました。

常に敬意や笑顔を忘れない自分でありたいと思いつけながら、今後も体力・知力が許す限りこの素晴らしい専門職に関わっていけたらと思います。

包
括
支
援
セ
ン
タ
ー

こだわりを持たない

生き方を学ぶ

社会福祉士

内藤久美子

この度は、社会福祉法人友愛会創立五〇周年、誠におめでとございます。

祖父母と同居することはなかったので、高齢者の暮らしぶりを身近に見る機会は少なかったのですが、高齢者福祉の仕事に携わるようになり、少しずついろいろなことが見えるようになっていきました。

そのなかで学んだことがあります。それは、こだわりを捨てるという勇氣を持つことも必要だということです。人にはそれぞれこだわりやゆずれないことが一つや二つはあるでしょう。例えば、私の場合、絶対自分は最後まで自分の家に住み続けるとか、不自由な生活になっても人の世話にはな

らないとか、このようなこだわりがありました。でも、包括の職員として、また、ケアマネジャーとして高齢者の方々と接してきて、ハッとさせられました。こだわることをやめ、柔軟な考えで暮らそうと思われ、実行されてきた方が、その後の暮らしぶりもうまくいき、生き生きと暮らしておられるのです。長年の習慣やこだわりなどを大きく変えることは難しいかもしれませんが、少し変えるだけで、新しい世界が広がる可能性があるのです。

この学びを、業務に生かすだけでなく、自分自身の生き方を決める時の助言として常に意識していきたいと考えています。

仕事をして思う事



看護師 服部 素子

亀岡友愛園五〇周年
おめでとございます。
包括で仕事を始めて、早いもので四年目となります。当初は、地図を見ても迷子になり、車にも慣れず、包括の車を傷つけてしま
う等いろいろな事がありました。本当にご迷惑をお

かけしました。そんな私も
今、何とか仕事をこなせる
ようになりました。地域の
高齢者の方々にいつまでも
元気に過ごして頂けるよう、
介護予防の取り組みや困り
ごとを聞いて、サポートを
しています。地域でお役に
立てる包括の仕事は深いし、
難しいですが、包括のチー
ムでより良くサポートでき
るようにしたいです。

地域の方たちや民生委員
さん、病院との連携で医師
から「包括が関わってくれ
ていたら安心」と言ってく
れ、少し、嬉しくなりまし
た。包括や友愛園の皆様に出
会う事が出来て感謝してい
ます。
頑張ります。

包
支
援
セ
ン
タ
ー
—
括



亀岡市

西部地域

包括支援センター

花よりも

花を咲かせる土になれ

看護師 新田 節子

なっていた私に向けた言葉
でした。何故か言葉に意
味深いものを感じていま
した。今でも「よい土を作
る」ための自分磨きを続け
ています。

医療の世界から福祉の
世界に飛び込んだのは六
五歳です。七十路を迎えて、
長い人生失敗の連続です。
過去を悔やむのではなく
の今の自分を受け入れて、
これからの人生好奇心を
持って未来を見据えて生
きれば楽しみが見つかる
はずです。友愛園で働かせ
て頂き母親との長い蟠り
も薄れました。老いへの不
安はありますが今まで頑
張ってきた何にも代えが
たい経験がこれからの私
の支えです。

私の生まれた時代は「男
は仕事、女は家事」と諭さ
れ、世間の目を気にしなが
ら働いていました。当時の
上司から「花よりも花を咲
かせる土になれ」と言われ
ました。若い頃は何も考え
ず唯々がむしゃらに働いて
何時しか愚痴を溢すように

地域密着型事業所 すずらん

すずらんの花一つ一つに
ご利用者、ご家族、
地域、職員と咲き誇って
一つの花になるという思いを込めて



すずらん開設して 15年

すずらん

所長 小早川 広恵

所長
ごあいさつ

すずらん

私は、平成九年四月特別養護老人ホームの開設時に非常勤看護員として就職しました。小さな子供を子育てしながらで、子供が体調不良になると仕事を休まざるを得ない日々がありました。

同年十二月にデイサービスに異動しました。看護員は一人しかいない状況で、何かあれば私が医療的判断をしなければいけない。というプレッシャーの中で、仕事の楽しさが理解できないままひたすら働いていたように思います。ご利用者やご家族の方から「ありがとう」という嬉しいお言葉を頂くようになり、私も役に立っている事があるんだ。と嬉しく思った事がありました。それからプレッシャーというより何か喜んでもらえることが出来ないかと考えるようになりました。

平成十七年に、広島県福山市にあるグループホームとデイサービスを見学しました。お酢の蔵を改装した民家改修型の事業所で、木の温かみのある部屋で、自宅のように過ごしておられるご利用者を観ました。駄菓子屋もさわれており、子供たちが買いに来るのです。販売員は、デイサービスのご利用者でした。私が関わっているデイサービスとは全く違う。このような地域に密着した事業展開をしたいと思い、現在の理事長にお伝えしたことがありました。

平成十八年制度改正があり、地域密着型サービス事業として、グループホーム、小規模多機能型居宅介護が制度化されました。

平成十九年四月地域密着型サービス事業所として、民家改修型のすずらんが開設しました。グループホームと小規模多機能型居宅介護の二つの事業を展開することになり、小規模多機能型居宅介護においては、亀岡市第一号です。

グループホームとは、認知症の診断のある方が九名生活をされています。小規模多機能ホームは、自宅から通い、泊まり、訪問と一体的にサービスが受けられる事業です。家庭的な雰囲気大切にしました事業所です。事業所名の「すずらん」には、花言葉に優しさや幸福の再来とあり、「ご利用者やご家族地域と一つになって咲き誇れるようにとの思いを込めています。」「その人らしさ」と「心のふれあい」を大切に、自宅と同様に地域の中で暮らし続ける支援を行っております。

すずらんが開設して十五年が経過しました。早いものです。余部町のふれあいサロンや文化祭、天神さんのお祭りなど地域の方に交じって様々な行事に参加して参りました。現在、コロナ禍にて地域の活動は不十分ではありませんが、これからも未永くすずらんをよろしく願います。

ご利用者様の声

すずらんで
お世話になって

ご利用者 小林 陽子



まずは、法人五〇周年おめでとうございませぬ。

私は、すずらんでお世話になっていゝるので、五〇周年と言われてもそんなにならぬのは知らぬでせぬ。すずらんが出来た時知らぬでせぬ、すずらんが来た時知らぬでせぬ、すずらんの祭りも行ったことがあると思ひます。昔のことで忘らぬでせぬ、一回は行ってゐると思ひます。又、この管理者の小早川さんが余部町のふれあいサロンに来てゐたので、小早川さんのことは前から知らぬでせぬ。

ここに来ませぬ。知らぬでせぬ人がいると思ひます。

昔は合所に立って料理もしたし裁縫もしたし畑も買ひ物も皆一人でしていただけ、今は無理にならぬでせぬ。した。歳やして諦めたいになり気力もない。それがあかぬと思ひます。ですが、でも、すずらんの職員さん達が自分でできる事は出来るだけ自分でいゝるので、頑張らぬでせぬ。や裁縫もどきどきいゝので、いゝでせぬ。その言ひしてくれぬ人がいゝでせぬ。

甘えてしまつていゝことが増えてゐると思ひます。誰かがいゝので安心でせぬ。頑張らぬでせぬ。すずらんでいゝことが楽でせぬ。身体を動かせることが楽でせぬ。長生きしたくなつていゝ



わはる人もいゝけれど私は一〇〇歳まで生きる。一一〇歳まで生きる。その為にも元氣でいゝことが大事で、身体の体操や頭の体操もいゝ事は参加したいと思ひます。近くにいゝ場所があつて、私はあつたと思ひます。いゝから、美味しもの食べて身体を動かして一日一日を楽しくせぬでせぬと思ひます。

すずらん

ご家族様の声

職員の皆様へ感謝

ご家族 西澤 洋子

グループホームすずらんの職員の皆様には大変お世話になっております。

私の母が、貴所にお世話になって、三年ほど経ちます。この間、大きな病気や怪我もなく生活できていたのも、職員の皆様のおかげです。ありがとうございます。

母は、四国の出身で、父がなくなり一人での生活が困難となり、娘の私が住んでいる亀岡で生活することになりました。

生活環境の違いもあり、亀岡での生活に慣れてくれるか心配しておりましたが、デイサービスや小規模多機能を利用し、周囲の皆様のおかげもあり、そして、すずらんの出会いにより、八四歳になった今でも元気に過ごしております。

入所して以来、毎週仕事が休みの日は、母に会うためにすずらんに伺うと、職員の方が快く迎えて下さり母と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

今は、コロナという感染症により、母と直接触れ合うことが出来ない

のがとても残念ですが、会えない分毎月のお便りの中に母の写真や母の様子が書かれた手紙を送って頂いてありがたく拝見しております。

感染症拡大以前の状況には戻らないとは思いますが、自分たちも体力や免疫力をつけて、そして、感染症に対応できる薬が早く開発されることを願う毎日です。



貴所が、法人設立五〇周年を迎えられるということで、長い間、事業を続けられていらっしゃるのも、職員の皆様のご利用者やご家族に対して寄り添った支援をして下さっているからだと思います。大変な時代ではありますが、職員の皆様には、お身体を大切にし、これからも頑張っていたきたいと思っております。

すずらん

職員からのメッセージ

私の15年

チーフ 沖 春 菜



この度は、法人設立五〇周年、誠に
おめでとございます。

この節目の年に掲載させていただ
だけることを光栄に存じます。

私が、すずらんに入職する前は、
ショートステイの職場で働いてい
ました。そこでは、短期間でご利用
者が変わり、その方の人となりを
知る前に帰っていかれることが多く、
もっとじっくりゆっくりに利用者
と関わってみたいと思い、すずらん
に入職させていただきました。

入職してから、今までを振り返っ
てみると、現場経験があっても、認
知症の方への対応の仕方や知識不
足の為、戸惑うこともありました。



また、同時期に入職した職員は自
分より年下で、現場経験がなく自分
がリーダーシップを取らなければ
いけないのかという不安を感じて
いました。そんな日々の中で、ご利用
者のためにどうしたらいいのか、
どうしてほしいかと思っておられる
のかをその都度一緒に考え行動す
ることで、チームとして高め合っ
て人ひとりが成長していけたらと思
います。自分自身も認知症への知識

を深め、入職前に思い描いていた
「ご利用者とじっくりゆっくりに関
わる介護」を実現することができ
様に感じています。
入職してから十五年が経ち、今も
こうしてすずらんでは働いているこ
とを嬉しく思います。これからも、
ご利用者と向き合い、チームとし
ても高め合っていけるすずらんであ
りたいです。

すずらん

社会福祉法人 **あゆみ** 友愛会の



軽費老人ホームの完成！



軽費老人ホームの造成



軽費老人ホームの建築中

昭和49年
(1974年)

職員宿舎
7月25日
完成

昭和48年
(1973年)

12月1日
軽費老人ホームA型
開設
(定員50名)

昭和47年
(1972年)

12月7日
社会福祉法人「友愛会」
設立認可



お楽しみの一泊旅行



1日の始まりは
ラジオ体操から



手芸クラスでは
皆さんでワイワイと楽しい時間



先生を招いてお茶席

昭和52年
(1977年)



3月
軽費老人ホーム 夫婦部屋 4室 増築



熱心にお祈りを捧げます



ゲートボールは健康づくりには欠かせません

毎年恒例のバザーを通して地域の皆様と交流します



生活での一コマ...



特別養護老人ホーム完成！



平成9年
(1997年)

平成8年
(1996年)

特別養護老人ホーム 開設 (定員50名)
 ショートステイ 開設 (定員16名)
 デイサービスB型 開設
 ホームヘルプステーション 開設



在宅介護支援センター 開設
 4月 デイサービスE型 開設

ダイニングから日本庭園が見えます



地域密着型事業所
「すずらん」完成!



地域の文化祭にて



旅行で親睦をはかりました

平成19年
(2007年)

平成12年
(2000年)

介
護
保
険
開
始



工事中の「すずらん」

地域密着型事業所「すずらん」開設
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
小規模多機能型居宅介護





平成24年
(2012年)

平成22年
(2010年)



亀岡市地域包括支援センター友愛園 開設

特別養護老人ホーム30増床で定員80名
内、50床が新型特養（個室ユニット型）



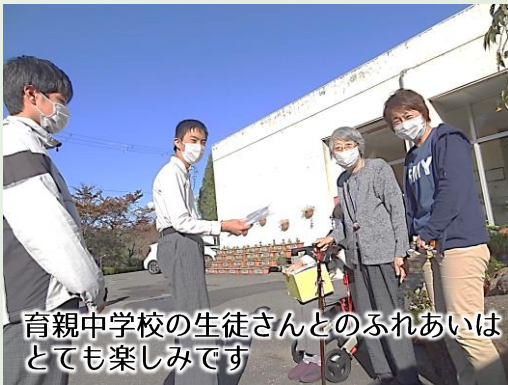
ご利用者様の作品には
愛情がたっぷり
込められていて
とっても素敵です



健康維持に欠かせません



丹精込められて
育てられた
野菜や花々



育親中学校の生徒さんとのふれあいは
とても楽しみです



平成27年
(2015年)



高齢者あんしんサポートハウス
亀岡友愛園のオープン！

高齢者あんしんサポートハウス
亀岡友愛園 開設



地域貢献事業として
地域の皆さんの集いの場として
「桑山邸」開設（現在休止中）

平成28年
(2016年)


コロナ禍頑張っている
亀岡友愛園の職員の方へ
「ありがとう」の想いをこめて、
おでんのプレゼント



地域貢献事業
開始


ムキキです!

訪問介護員
下村 由起




令和4年8月に入職しました、下村です。施設経験を活かして、在宅での生活をサポートできるように頑張っていきたいです。

特別養護老人ホーム
環境整備員
秦 美津子




11月末よりお世話になっております。ブランクがあり、心配もありましたが、皆さんが優しく接して下さいます。これからもご利用者のお部屋を綺麗にさせて頂きます。

特別養護老人ホーム
介護員
山本ルゼニア



毎日楽しく仕事をさせて頂きありがとうございます。よろしくお願い致します。

特別養護老人ホーム
介護員
レティミリ




亀岡友愛園に入って1年になります。毎日、お爺さん、お婆さんとお話したり、体操したりしています。仕事が楽しくできています。初めて働いた時、先輩に優しくサポートしてもらいました。

特別養護老人ホーム
介護員
グエンティカムフン




友愛園に入ってもうすぐ1年になります。仕事が楽しくできています。先輩は優しく仕事を教えてくれます。良かったです。

小規模多機能ホーム
看護師
原 桂子



令和4年8月に入職しました。今までの経験を活かして利用者様の支援が出来たらと思っております。よろしく申し上げます。

グループホームすずらん
介護員 寺本 千賀子



10月より入職しました寺本です。私は、以前特別養護老人ホームで働いておりました。この度、御縁もありグループホームでの勤務をさせて頂く事になりました。グループホームでの仕事は初めてで、今は右往左往の状態ではありますが、スタッフの方々にご指導頂きながら日々頑張っております。早く仕事を覚えてご利用者の方々に安心して生活して頂けるよう支援出来たらと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

よろしくおねがいします!



居宅介護支援
ケアマネージャー
渡壁 義哉

2022年8月に入社いたしました。
友愛園には前職（訪問介護）からお世話になっております。

ご縁あってケアマネージャーとして友愛園に貢献すべく入社しましたが、昨年11月に体調を崩し、大変ご迷惑をおかけしております。復帰はしましたが、まだしっかり働けていないので、一日も早く回復して、また職責を果たせるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

訪問介護員
齋藤 明代



毎日の人との出会いを楽しみに日々過ごしていると、気が付けば入職してから3年目に入っていました。

利用者様に寄り添っていけるようにと思っています。



デイサービス
運転手
田中和之

入社して1年半余りになります。ドライバーとして安全運転をモットーに、これからもご利用者様に喜んで頂けるサポート

を目指して、頑張っていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

訪問介護員
柴田 真樹



令和5年1月よりヘルプステーションでお世話になります。

ご利用者の個性や気持ちを尊重し、寄り添った温かい介護を目指します。宜しくお願い致します。

デイサービス
運転手
四方 昭



去年6月入社して半年余りです。送迎の仕事も少し慣れてきたところです。これからも事故のないように頑張ろうと思います。

訪問介護員
井上 栞



一昨年の夏に入職しました。5年間訪問を経験し、その後5年間は施設介護を経験しました。久しぶりに訪問介護に戻りました。利用者様たちのために働けることが嬉しいです。よろしくお願いします。

訪問介護員
栗田由香里



訪問介護の仕事は初めてでしたが、丁寧に指導してもらい楽しく働けています。これからも介護の経験を活かして頑張りたいと思います。

訪問介護員
岡本まゆみ



ご利用者様に笑顔で寄り添って、明るく仕事に励みたいと存じます。宜しくお願い致します。

月別献金者 ご芳名

社会福祉法人友愛会のために用いてくださいと
尊い献金を寄せてくださった方々のご芳名を月
別に報告させていただきます。

令和3年4月から令和4年11月までにご厚情を
頂いた方でございます。(敬称略順不同)

令和3年4月

京都聖徒教会 安倍恵子

令和3年5月

京都聖徒教会 安倍恵子

令和3年6月

安倍恵子 京都聖徒教会

令和3年7月

中西一三 京都聖徒教会 安倍恵子

令和3年8月

京都聖徒教会 安倍恵子 なでしこ美容室 前渊幸信

令和3年9月

丸橋初美 藤田抄子 京都聖徒教会 組藤明哉 安倍恵子

令和3年10月

京都聖徒教会 安倍恵子 前渊幸信 日本基督教団京都復興教会

令和3年11月

京都聖徒教会 なでしこ美容室 前渊幸信 安倍恵子

令和3年12月

松本正二 桑瀬糸子 京都聖徒教会 古郝荘八 一木千鶴子 藤田抄子
藤井ムツ子 菅 恒敏・洋子 稲川はつを 樋口久美子 蔭山彰子 前渊幸信
岩崎國宏・功子 岡部友子 安倍恵子 丹波新生教会 安部洋子 今井恵一

令和4年1月

前渊幸信 島本キリスト福音協会 京都聖徒教会 安倍恵子 山本富美子

令和4年2月

竹内美知栄 京都聖徒教会 京都復興教会

令和4年3月

京都聖徒教会 前渊博明 亀岡友愛園後援会 安倍恵子

令和4年4月

笹原訓子 京都聖徒教会 西村輝江 なでしこ美容室 安倍恵子

令和4年5月

京都聖徒教会 亀岡友愛園後援会 安倍恵子

令和4年6月

前渊 功 亀岡友愛園後援会 京都聖徒教会 安倍恵子 山田勝造・幸子

令和4年7月

京都聖徒教会 亀岡友愛園後援会 亀岡聖書バプテスト教会 安倍恵子 蔭山彰子

令和4年8月

西村久子 亀岡友愛園後援会 京都聖徒教会

令和4年9月

京都聖徒教会 京都復興教会 亀岡友愛園後援会 安倍恵子 藤田抄子

令和4年10月

京都聖徒教会 安倍恵子

令和4年11月

京都聖徒教会 安倍恵子 前渊 功 前渊 豊

後援会会員名簿

社会福祉法人友愛会後援会の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

「友愛」の機関紙を発行して、後援会員の名簿を掲載し、ご報告に代えさせていただきます。

(令和4年11月現在 敬称略 順不同)

天野 洋 天野信子 伊藤 望 茨木福夫 今西儀夫 今西光恵 植村良彰
 王鞍静子 大西啓造 大西幸子 岡田淳子 岡部友子 片岡広明 河原林優子
 小畑 光 小畑幸代 金谷恵美子 上島滋之 菅 恒敏 菅 洋子
 亀岡聖書バプテスト教会 木村文司 京都ハリストス正教会婦人会 神戸照代
 阪口登詩江 佐々木初代 澤野井慶子 清水 潔 清水宏子 清水敬子
 新開千恵子 千足創三 千足和子 高畑恵子 田中 顕 北村ちづ 田中範子
 玉村光子 遠山ミチコ 長尾研司 中川紀子 永田真一 永田真由美 中西俊弘
 中村いく 仲村喜雄 村上 宏 村上すみ子 丹羽はるみ 韓 守信 人見光雄
 樋口久美子 廣澤悦子 福嶋明美 藤井ムツ子 藤田抄子 藤野孝雄 藤野裕子
 前淵博明 前淵美佐子 松本正二 水谷明子 三村幾久子 山内敏正 村上ヨシコ
 森 美由起 安福美代子 山下ヨシヲ 山田節夫 山田絢子 山本富美子 山本貴美
 力石明子 リンカンリチャード・ベル節子 仲田幸雄 加舎 博 青木 薫
 新 久雄 石田晃基 伊藤真由美 穎川英宜 大下美和 大石和代 蔭山佐代子
 川勝沙紀 川坂由佳 川村健司 桐原康介 倉石賢治 栗田一平 五代喜代美
 小早川広恵 小森智仁 小森優香 小林恵子 坂本直子 澤田尚樹 塩見和江
 柴田一馬 清水裕子 高坂洋介 高坂晶子 津崎順也 寺嶋浩子 富井 香
 内藤久美子 長野真紀 中澤妙子 中村美恵 鳴瀬慎太郎 能勢幸浩 野本誠喜
 畑 昌平 服部素子 平八重朝雪 廣瀬竜介 福庄隆樹 福田 朝 藤井 操
 堀越千鶴子 前淵 功 前淵 豊 松田裕子 松本理恵 山内紀子 山田美香
 吉田美穂 渡壁義哉 下村由起



50th
Anniversary
社会福祉法人 友愛会